

ご挨拶

委員長 中野 攻

今宵は我が混声合唱団北声会の演奏会にお出で頂きまして、誠に有り難うございます。日頃のご愛顧とご協力、ご指導に対しても心から感謝申し上げます。

昨年は、第40回という節目に、3年間の集大成として「フォーレのレクイエム」を「歌う会」の皆さんと共に全曲演奏し、感動のひとつを共有できたことを、とても嬉しく思います。

さて、今年はグノーの「聖チェチーリア荘厳ミサ曲」より3曲演奏することになりました。来年は全曲演奏の予定です。

私事で恐縮ですが、この「セントチェチーリアのミサ曲」については、思い入れがあるのです。というのは、大学時代に「ボア」という純喫茶（音楽喫茶）があったのですが、上田の寮に住んでいた私は、時々50円だったかのコーヒーを飲みながらレコードをかけて聞いていたのです。初めてこの曲を聴いて感動したのがこの喫茶店だったのです。ぜひこの曲はいつか必ず歌ってみたいと思っていたものでした。その願いが45年ぶりに叶うのです。勿論他の団員もそれぞれの思い入れを持って、感動して頂けるような演奏にしたいと思っています。今回はソリストにいつもお願いしている高野こずえさん、小原一穂さんに加え、若手の有望株鏡貴之さんをテノールソリストにお願しました。どうぞじっくりとお聴き下さい。

また、我が合唱団にとってとても嬉しいニュースがありました。昨年の定演後に、高校1年生の女の子が入団したのです！ ステージでは学校の制服を着ているのですが分かります。北声会の前身の「盛岡放送合唱団」時代には、高校生もいたかとは思いますが、北声会では前代未聞のようです。もう一人2年生の女の子も入団したのですが、学業の都合で辞めてしまいました。彼女も大学に入ればきっと入団してくれるはずです。20代の女性も入団しましたので、1年ごとに高齢化が進む中に、こういう若い息吹が感じられることはとても嬉しいことです。どうぞ皆さんも感動してやって下さい。

最後に皆さんのご理解のないご批評とご指導を賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。今宵は本当に有り難うございました。

歌い続けるための「合唱力」(?)

常任指揮者 山田 靖了

練習前のことでした。「いつまで歌えるのでしょうかねー。」実感のこもった問いかけに何と答えたらいのか…。咽嗚に両手を胸の前で合わせ、頭を下げお祈りのポーズ。「これまでです(合唱！)」。ずーっと歌い続けるためには…とつい考えてしまいました。

日頃話している「楽に声を出すこと」「響かせること」「音を合わせること」「メンバーと調和すること」そしてそのために「健康であること」等は、「合唱力」(?)という「言葉」があれば、その根幹に当てはめても不思議ではないように思います。

2000年、2002年の二度にわたる北欧演奏旅行で、ノルウェー、スウェーデンを訪れ、現地の合唱団との交流を行いました。どの合唱団も、音叉で音を取る歌い出しで、男声の倍音に滑り込む柔らかなハーモニーが醸し出され、明るく響き渡る歌声は感動そのものでした。

2002年の帰途、団員と別れてハンブルグに寄り、知人が加わっている「カネマキ・コア」(※)の練習を聴かせて頂きました。ピアノに合わせての首振り練習は大声を張り上げ、勝手かな？と思いましたが、しかし、その後のア・カペラ(無伴奏)のカデンツ(和音の終止形)では、縦横取り混ぜたテンポの中で、指揮者との呼吸の呼吸びたりで、見事なクレシェンド、デクレシェンドや朗々とした厚いハーモニーは、これがドイツの音！と思わせる程巻きました。

私達はピアノに頼ることが多く、始終ピアノが鳴り響いている中で歌うことが大好きです。言い方を換えれば、ア・カペラで他の音に和することは不得手です。これもお国柄を反映する「合唱力」の違いでしょうか。いずれにせよ、千差万別の「合唱力」を備えたメンバーと共に、この先長く歌い続けることを願い、若々しくトライしているところです。

今回の定期演奏会では、若手大学の佐々木正利先生、若手大学合唱団をはじめ、多くの方々のご支援を頂きました。衷心より厚くお礼申し上げます。

ご多忙の折ご来場下さいました会場の皆様方、今後とも何かとご支援下さいますようお願い申し上げます。

※ 1992年創設、ハンブルグ在住の印教和生氏が指導に当たる70人の混声合唱団。日本人は数名。印教氏はカネマキ・キングコアなど7団体の他にオーケストラも指導している。



ソプラノ
高野 こずえ

盛岡二高、宮城学院女子大学学芸学部音楽科声楽卒業。武田敏子、故若野絢子、丸岡千奈美、鎌田滋子の各氏に師事。'98年若手芸術祭、'99年盛岡芸術祭に出演。昨年はモーツァルトの「戴冠ミサ」のソリストを務め、好評。また、歌劇ではJ・シュトラウスの「こうもり」のロザリンド役、メロッティの「チップと犬」の少年チップ役で会場と一体化した役作りをする。今年9月にリサイタルを開催する。

北上声楽研究会所属、メサイアを歌う会、ラムジカ会員。音楽教室主宰。



テノール
鏡 貴之

若手大学教育学部芸術文化課程音楽コース卒業。現在東京藝術大学大学院修士課程(独唱専攻)在学中。声楽を佐々木まり子、佐々木正利、多田羅通夫の各氏に師事。

主に宗教曲、オラトリオのソリストとして活動中。特に、J.S.バッハの作品を活動の中心としている。他には幾大合唱定期でブルックナー「テ・デウム」「ミサ曲第3番ヘ短調」等。

オペラでは、モーツァルト「魔笛」の僧侶、武士役。幾大モーニングコンサートで、モーツァルト「魔笛」のタミーノ役を務める。

盛岡パッサ・カンタータ・フェライン、幾大パッサ・カンタータ・クラブ、21合唱団、日本発声学会、グルッペ・ベッヒライン、各会員。



バリトン
小原 一穂

盛岡一高、若手大学教育学部音楽科卒業。東京学芸大学大学院修士課程修了。森肇子、今岡由紀子、中村義春、移川澄也、佐々木正利、P.フッテンロフハの各氏に師事。H・クレッチマル、K・ヴィトマーにリート及び宗教曲の歌唱法を学び、高い評価を得る。

宗教曲を中心に「第九」、「森の歌」等の演奏会にソリストとして多数出演する他、創作オペラ、ミュージカル、音楽劇の主要キャストを務め好評を得ている。盛岡市等でリサイタル開催。盛岡パッサ・カンタータ・フェラインコンサートマスター、盛岡市立城西中学校勤務。若手大学非常勤講師。



エレクトーン
武澤 えりこ

4歳からヤマハ音楽教室に通う。6歳より作曲、自編曲演奏でコンクールに参加。8歳よりエレクトーンを始め、久保協子氏に師事。1993年エレクトーンフェスティバル若手県大会シニア部門銀賞受賞。

1996年若手大学工学部卒業。声楽を師事している一穂静子氏のリサイタルなどで伴奏者として活躍。現在、ヤマハ音楽教室システム講師、コース伝達スタッフ兼任。



指揮
山田 靖了

山形大学特設音楽科卒。盛岡一高、盛岡二高、一関一高等に勤務し、全日本合唱コンクール全国大会において、一関一高を金賞、盛岡一高を銀賞に導く。退職後は、中・高生の指導や、昨年はコールTONANをおかあさんコーラス全国大会に導くなど幅広い活動をおこなっている。

現在、若手県合唱連盟理事長、混声合唱団「北声会」常任指揮者、一関女声合唱団、コールTONAN指揮者、若い世代の合唱団「La petite goutte」(ラ・ペティ・グッテ)小さな声)音楽監督、若大附属中学校非常勤講師、21世紀の合唱を考える会・合唱集団「音楽樹」会員。



ピアノ
小笠原 史

盛岡白百合学園高等学校、玉田大学芸術学科ピアノ専攻卒業。瀬川慶子、新沼康博の各氏に師事。

混声合唱団北声会、コーラス四季ピアニスト



司会
佐々木 聡子

盛岡二高、東北学院大学文学部卒業。若手放送入社。秘書部、人事部等10年間勤務の後、退社。現在、音楽団体のお手伝いや、地域の活動支援など広く関わる傍ら、読み聞かせや司会などでも活躍中。不來方エコー所属。



第36回 盛岡芸術祭 合唱部門公演

2007年5月20日 盛岡市民文化ホール 大ホール



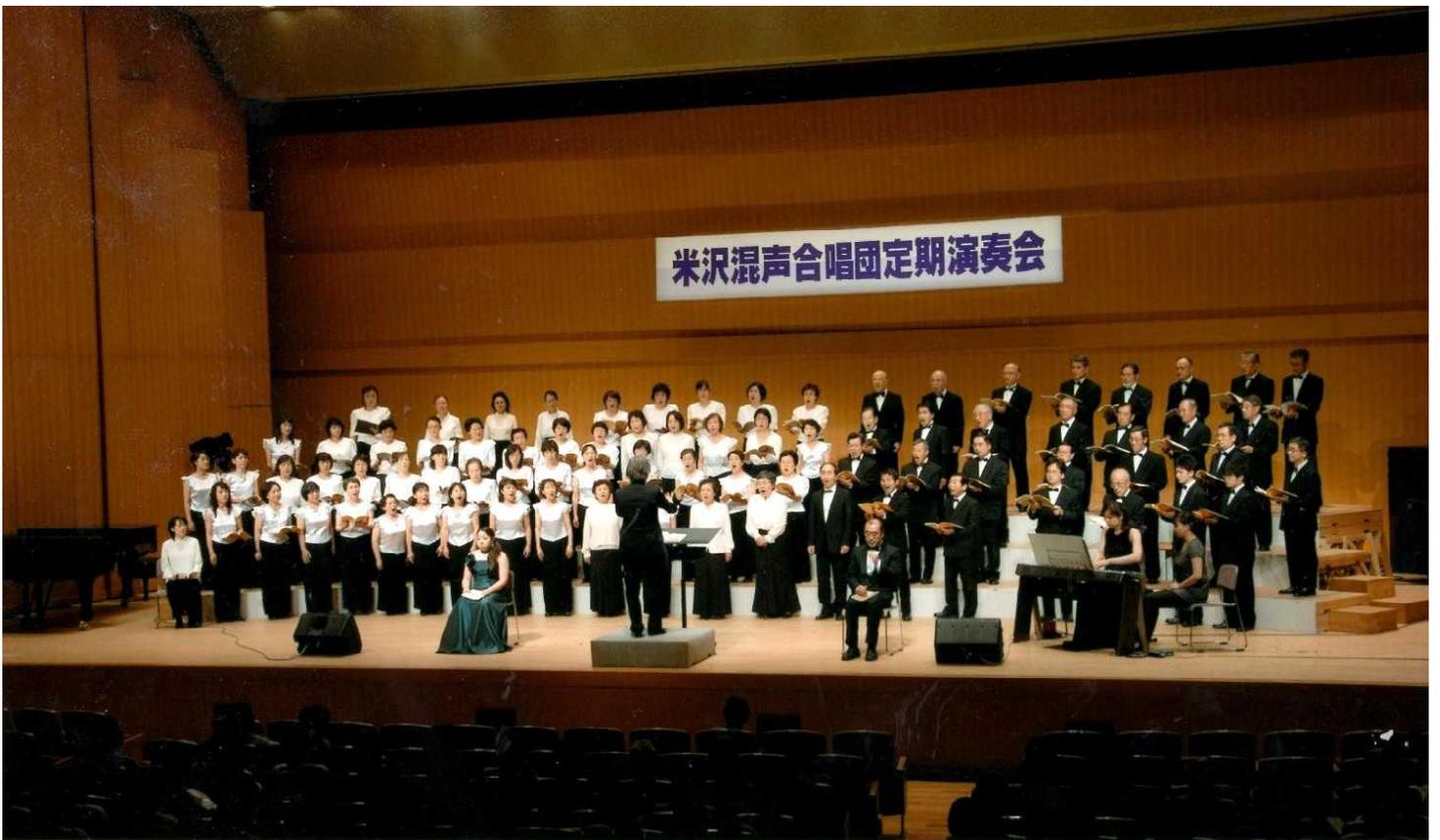
混声合唱団 北声会 第41回定期演奏会

2007年7月21日 盛岡市民文化ホール 大ホール



混声合唱団 北声会 第41回定期演奏会

2007年7月21日 盛岡市民文化ホール 大ホール



“第9回 米沢混声合唱団演奏会 夏物語2007” H19. 8. 4
「伝国の杜」置賜文化ホール



001-026

第60回 岩手芸術祭 合唱祭 2007年12月9日 一関文化センター大ホール